

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.25
2015. January

発行者 琉球病院事務部長
吉永 可公

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

新春お慶び申し上げます

院長 福治 康秀

新年あけましておめでとうございます。
今年もみなさんにとってより良い年となることを願っております。どうぞよろしく申し上げます。

新体制になって半年が過ぎました。今年は新体制にとって正念場です。病院の建て替えと、それに伴う病院機能の再編があり、病院全体の力を合わせ全力で進めていきます。

建て替え工事は1期工事(精神科棟)と2期工事(重度心身障害児・者病棟、作業療法棟)が並行して進んでいます。1期工事は順調で6月には完成する予定です。ただし、2期工事は追加工事が必要なが分かり9か月ほど遅れる見通しとなりました。完成を期待している皆さんには残念なお知らせですが、スタッフ一同最善を尽くし無事に完成させますのでお待ちください。今のところ平成28年度前半に完成する予定です。精神科病棟の完成後は、外来を中心に改修工事を行います。現在、診察室が足りず受診する皆さんにはご不便をかけていますが、この状況を改善しさらに明るく快適で機能的な外来に変わります。

これらの建て替えを機に、さらに診療機能を上げていきたいと考えており、その具体化をスタッフ一同で日々話し合っています。クロザピンと修正型電気痙攣療法(m-ECT)を中心に置いた治療抵抗性精神疾患の治療、アルコール・薬物等の依存症治療およびアルコール問題の早期介入、包括的地域精神医療(Ryukyu-Assertive Community Treatment: R-ACT)、児童・思春期精神医療、重度心身障害児・者医療(動く重心)、医療観察法医療や司法鑑定といった司法精神医学、そして認知症医療をさらに充実させます。また、沖縄県との連携事業である「難治性精神疾患地域連携体制整備事業」、「子どもの心の診療拠点病院整備事業」そして「災害派遣精神医療チームDisaster Psychiatric Assistance Team (DPAT)」をしっかりと進めていきます。そして、健康おきなわ21では、アルコール対策の役割をいただきましたので、当院の持っている知見を活かし長寿島の復活に向けて取り組んでいきます。

病院の臨床機能を向上させる基礎は多職種チーム医療が要となります。これまで以上にチーム力を上げ、より良い医療を提供できるよう努力を続けていきます。

これらの取り組みを進めていくためには、各関連機関との連携が最も重要です。今年も密な連携をお願いすることも多いと思いますが、どうぞよろしく申し上げます。

今年は、ひつじ年です。ひつじは群れをなして行動するため、家族の安泰や平和をもたらす縁起物とされているそうで、みなさんにもそして当院にも安泰と平和がもたらされる年になることを期待しています。

今年も、より良い医療・療養を提供するべく、スタッフ一同で取り組んでいきます。ご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
ユニット 4床
- ・重症心身
障がい 80床
- ・医療観察法 37床



トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
進捗状況 本体工事: 請負業者 電気設備 (株)九電工
機械設備 (株)三建設備工業
建築(第1期)工事 (株)浅沼組
建築(第2期)工事 (株)浅沼組

教育・研修

- 第39回琉球セミナー 平成27年1月26日(月) 18:00~19:00 於:琉球病院研修棟3階
講演 『地域という視点から認知症診療のあり方を考える』
講師 橋本 学先生(国立病院機構肥前精神医療センター認知症疾患医療センター長)
- 第40回琉球セミナー 平成27年2月13日(金) 13:00~16:00 於:琉球病院研修棟3階
シンポジウム『東日本大震災の心のケアを振り返る』~地元援助者とともに必要な支援を考える~
シンポジスト 岩手県宮古市 宮古保健センター 宮古地域こころのケアセンター 他(詳細は当院ホームページ)

● 地域医療連携室だより

当院では、一般精神のほか、アルコール・薬物、児童思春期など、様々な専門医療を提供しております。診察のご希望も多くいただくようになりました。ご予約のお問い合わせも増えております。お待たせしないためにも、初診のご希望につきましてはまずは地域連携室へお電話いただき、予約を入れていただきますようお願い致します。なお、初診時はお時間がかかることが予想されます。余裕をもってお越しくださいますようお願い致します。



空床状況
12月24日現在

精神科病棟
10床

認知症
4床

アルコール
5床

児童思春期ユニット
2床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30~17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)
内線: 231・234
FAX: 098-968-7370
地域医療連携室直通

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目の投与を開始し、全症例は124例になりました。11月の新規導入は1例でした。重度の精神症状を持った患者様が回復され、その退院数も55例を超えています。クロザピン専門外来も3回/週行っており、患者様のご相談をお待ちしています。

m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っています。平成26年11月の治療実績3例であり、各症例とも改善傾向が認められています。

こども心療科

12月12日(金)に元九州大学教授の荒木登茂子先生をお招きし、アートセラピーの研修会を開催いたしました。定員を超える50数名の方が参加されたため、会場がやや窮屈となり参加者にはご迷惑をおかけしました。研修会は荒木先生の楽しい語り口調と充実した内容であったという間の時間でした。参加者自身がサークルローイングを体験することでアートセラピーの効果だけでなく、自分自身についても様々な気づきを得ることができたようです。終了後のアンケートでは「理論と実践で2日間位の研修会を実施してほしい」「もっと先生の話が聴きたかった」「現場ですぐに実践することができそうで良かったです」等の意見が多く、参加された方には大変満足していただきました。

こども心療科では来年度もこどもの発達や思春期臨床に関する研修会を定期的に開催していく予定です。研修会の予定は琉球マンスリーや病院のホームページに掲載していきますので、興味関心のある方はぜひご参加ください。

認知症医療

<認知症病棟における栄養サポートについて>

病棟に入院中の患者様は、平均年齢75歳と高齢であるため、様々な身体合併症を抱えています。その中で日々の食事についても重要で、患者様お一人おひとりが嚥下機能や食事形態が異なっており、認知症の病状や身体合併症により、食事摂取量が減少したり、経口からではなく点滴での治療を一時的に行う場合があります。その際に栄養サポートとして、主治医・内科医師・管理栄養士・薬剤師・作業療法士・病棟看護師がチームとなり、患者様が現在摂取している食事内容を見直し、栄養補助食品としてカロリーなどの栄養価の高いゼリーや飲み物を追加したり、食事の形状をやわらかく変更するなどの提案を行っています。こういったチームによるサポートで、患者様の病状が回復し、1日も早い退院に繋がるよう日々取り組んでいます。

重症心身障がい児医療

沖縄県では、「障害者差別解消法」の施行に先立ち、2014年4月に「沖縄県障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会づくり条例」が施行されました。これにより、様々な場面での差別禁止、障がいをお持ちの方への情報提供の充実等が義務化されました。条例の中の「障害のない人にとって問題にならないことが障害があることにより社会的障壁となったり、障害のある人に対する理解の不足、誤解、偏見等により、今なお日常生活及び社会生活の中で、困難を余儀なくされている人も少なくない実態がある」との文言について非常に考えさせられました。私自身は障害福祉サービスを提供する当院で職務を行っているため、一般の方々と比して、障がいのある方々への理解は有る方かと自覚していますが、私自身や当施設が社会的障壁を出来る限り取り払う努力を最大限に行っているかと言われると、まだまだ課題は多いのではないかと考えます。当院の職員間でも、こうした障がいをお持ちの方への根本的な考え方についても、考えていきたいと思えます。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では11月現在、外来通院の患者様63名、入院中の患者様16名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を助めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

<依存症病棟15周年記念式典>

去る平成26年12月13日、当院にて、琉球病院依存症病棟立ち上げ15周年記念式典を開催致しました。依存症病棟を卒業した方々、各地域のアルコール依存症、薬物依存症等の自助グループの方々、当院が日頃からお世話になっている医療、福祉等行政機関の方々、また当院のOBスタッフを含め、総勢115名のご参加を頂きました。村上優禰原病院長(当院前院長)による特別講演「私がともに歩んだアルコール・薬物依存支援の道~40年を顧みる~」が行われました。

包括的地域精神医療 (ACT)

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。訪問看護のスタッフは今年も変わらず、北部・中部地区の利用者の訪問を実施いたします。今年も、利用者が地域で生活する上で、本人の希望や、困り毎と一緒に考え、相談しながら地域で安定した生活ができるよう、利用者と共に寄り添い活動できることを目標にしています。訪問件数も多くなり、5チーム編成で1日31件を超すまでになりました。作業所や福祉資源の活用も段々と増え、地域でのケア会議も増加傾向にあります。利用者の皆様がさらなる活動の場が広がるよう地域ネットワークの充実に向けて今年も取り組みを強化したいと思います。

臨床研究部活動状況

【統合失調症認知機能簡易評価尺度日本語版 (BACS-J) の紹介】

認知機能障害は統合失調症の中核症状であり、患者様の社会機能予後に対して精神症状以上に大きな影響を及ぼすと考えられています(2008,兼田ら)。なかでも注意・遂行機能・記憶・言語機能・運動機能の領域が注目されています。BACS (The Brief Assessment of Cognition in Schizophrenia) はKeefeらによって開発された言語性記憶、ワーキングメモリ、運動機能、注意、言語流暢性、遂行機能を評価する6つの検査で構成され、所要時間30分程度と簡便に実施できる認知機能評価尺度です。兼田らによって2008年に日本語版が作成され、2013年に標準化の試みが報告されています(2013,兼田ら)。先月の琉球マンスリーでもご紹介させていただきましたが、日本語版を翻訳された医療法人翠松会岩城クリニック院長兼田康宏先生を当院にお招きし、講演していただく予定です。